

# City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか？身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

## 食品ロスを減らそう 家庭でできる食支援 “フードドライブ”

家庭で余っている食品を開催告知された日に持ち寄って地域の福祉団体などに提供し、食支援を必要とする人々に届ける活動をフードドライブという。社会貢献と同時に食品の無駄な廃棄を抑制する効果があるとして全国的に広がりつつあり、神戸市も取り組みを始めている。



昨年9月のフードドライブで集まった神戸市の提供食品の一部。



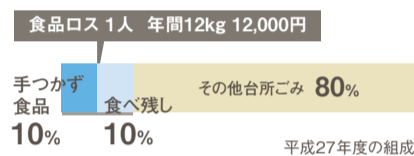
(右上)昨年6月にコープこうべ兵庫店で行われたフードドライブの様子。今年1月15日～17日には、神戸市内の35店舗で開催。今後は毎年この時期に、災害備蓄品の確認も兼ねた日してもらいたい、との思いで開催。  
(右下)昨年6月にダイエー甲南店で行われたフードドライブの様子。今年1月以降は、兵庫県内の10店舗で、毎月第3月曜から翌日曜までの7日間開催する。

### 全国的に深刻な ごみと食品ロス問題

**農** 林水産省の調査によると、日本の年間の食品廃棄物の総量は約2,775万トン。このうち、まだ食べられるにも関わらず捨てられている食品、いわゆる「食品ロス」は621万トンにもものぼる。これは、飢餓で苦しむ人々に対する世界の食料援助量の約2倍に相当するといわれ、食品ロスの削減が今、全国的に大きな課題となっている。

神戸市の平成27年度の調査によると、家庭から出る台所ごみのうち約20%が食品ロスにあたる。そこで平成28年度には、食品ロスの削減を目指し、廃棄される手付かず食品の種類や理由を分析する実態調査や市民・事業者などが参加するワークショップを実施。フードドライブの有効性が注目され、昨年モデル実施が行われた。

### 【家庭系燃えるごみのうち台所ごみの内訳】



食品を気軽に持ち寄ってほしいとの考えから、市民にとってより身近で、普段から足を運ぶ小売店と協働し、昨年6～10月にかけてコープこうべ3店舗、ダイエー2店舗で延べ44日間実施。合計394.8kgの食品が集まった。食品は、余剰食品の回収と分配を行うボランティア団体認定NPO法人フードバンク関西(神戸市)から生活困窮者に提供された。

神戸市環境局では、「ごみの削減だけでなく、生活困窮者の支援という福祉課題にも効果のある取り組み。今後も市民の身近なところに機会を設けていきたい」としている。

### コープこうべと ダイエーでの取り組み

**コ** ープこうべとダイエーでは、これまでも返品された食品やパッケージ破損した品などを寄付する取り組みを行ってきた。今回の神戸市とのフードドライブは、「組合員の方の関心も高く、食品ロス削減という社会的課題に取り組みたい(コープこうべ)」「捨てられてしまうのは残念。社会全体で食を大切にす文化を作りたい(ダイエー)」と参加した。食品の回収は両社で異なる方式を採用。コープこうべでは、スタッフが直接食品を受け取り、持って来た人とコミュニケーションできる有人方式。一方ダイエーでは、誰でも気軽に参加しやすいよう、店舗に回収ボックスを設置する無人方式をとった。両社の担当者は「暮らしを見直すきっかけにしていきたい(コープこうべ)」「定期的実施し、食品ごみの削減に寄与できれば(ダイエー)」と話す。参加者からは「また実施してほしい」との声も多く、今後実施店舗を増やしていく予定という。

### 定期的な開催が有効 食品ロスのない社会へ

**各** 事業者が集まった食品は、フードバンク関西に集められる。同法人は、個人や企業などから食品を無償で引き取り、支援の必要な人や施設などにボランティアで無償分配する事業を15年間行う。昨今広がりつつあるフードドライブの取り組みについて代表の浅葉めぐみさんは「食品ロスは家庭からの量が一番多いので、家庭から廃棄される手付かずの食品を減らすことが重要です。フードドライブは定着するまで時間はかかります。しかし、定期的な回を重ねていくことで各家庭の食品庫チェックの回数や買い物時の意識も上がり、余剰食品を出さなくなっていくはず。フードドライブをする必要のない、食品ロスのない社会になることが理想です」と話す。

## 来年度実施は見送るか 神戸阪神間の キッズウィーク導入

### 大人と子どもが 一緒に過ごす休日を増やす

**政** 府は、来年度(平成30年4月)から新たな休暇制度「キッズウィーク」の導入を調整している。キッズウィークとは、大人と子どもと一緒にまとまった休日を過ごす機会を創出するための取り組み。都道府県や市町村など、地域ごとに学校の休業日を別の時期に分散し、子どもが休みの日は大人も有給休暇を取得して、休日の多様な活動機会を確保することを目的とした制度のことだ。全国一律・一斉ではなく、地域の実情に応じて教育現場や企業の取り組みなどを踏まえ、地域ごとに多

様な方法で自主的に取り組むことを想定している。

今後は、省庁と団体による国レベルでの会議が行われ、意見交換や総合調整を行う。一方地域では、教育・経済・観光文化・交通などの関係機関からなる「地域における休み方協議会(仮称)」を設置。休業日分散化の実現に向けて話し合いを進めるとともに、各地域で観光資源の魅力向上に向けた取り組み状況を確認し、好事例等を発表していくという。また国民に対しては、キャッチフレーズやロゴマークを作成して商品開発などを行い、キッズウィーク実現に向け国民的な機運を高めていきたいとしている。

### 学校休業日の分散化イメージ

※休業日の時期や期間は、地域の実情に応じて設定

#### 【例1】夏季休業日を短縮し、県民の日と合わせて4連休を創設

6月							8月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3			1	2	3	4	5
4	5	6	7	8	9	10	6	7	8	9	10	11	12
11	12	13	14	15	16	17	13	14	15	16	17	18	19
18	19	20	21	22	23	24	20	21	22	23	24	25	26
25	26	27	28	29	30		27	28	29	30	31		

#### 【例2】夏季休業日を短縮し、土日等と合わせて、例えば秋に新たな長期休業日を創設

7月							8月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	8	9	10	11	12	13	14
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	15	16	17	18	19	20	21
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	22	23	24	25	26	27	28
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			29	30	31				
30	31																			

出典:キッズウィーク総合推進会議(第1回)資料

### 神戸市は検討中 西宮・芦屋は見送る可能性大

**神** 戸市では、「子どもが休日になっても、親は簡単には休めないのでは」、という声も学校関係者などからは出ており、また、授業時間の確保という観点から休業日を増やすこ

とは難しく、全校一律で休業日を設定することも、学校現場の混乱を招く恐れがあると考えている。一方で、来年度以降どのような形で導入できるか検討中だ。芦屋市と西宮市では内部での情報共有はされているものの、具体的な取り組みは行われておらず、来年度実施は見送る可能性が高い。